特別史跡
名護屋城跡
大手口

尖石遺跡

この台地の東南隅の斜面から昭和十五、十六、十七年に亘って、竪穴住居址三二基を発掘した。これ等は殆んど壁一重に隣合っていて、尚全域には多数の住居址が埋没しているものと想像される。

又三十三号住居址の東の畑からは、径一米、深さ一米の竪穴群や大甕形土器に自然石の蓋をして出土し、石が敷き並べてあり、これらの遺構は共同的な広場と推定された。当時即ち約四五千年前の縄文中期時代には軒をつらね、八ヶ岳山麓石器文化中心地としてすこぶるにぎわいを極めたものであろう。

南斜面に見えるからまつの大樹の根元に巨石「尖石」がある。その三角錐状の形から地名と遺跡名が由来する。

尖石第三十三号住居址

この竪穴住居址は昭和二十九年に三笠
台地下が当遺跡へお成りになり発掘された。
ここは径五・二〇米で地表下六〇糎の赤土を二〇
糎掘り下げて床とし、中央より稍々北に片よって
円炉址（径一米、深さ四四糎）を設け、周囲
に六本の柱をたてて上家を架した。又周
囲の溝に萱の茎をたてゝ防壁の設備をした。
今から約四千年前の縄文中期の住居
である。床面には用具としての土器、石器が
そのまゝ遺存し、土器二点は完形に復原
された。石器は石錐一点、石小刀二点、石鏃四
石斧四点、磨石斧四点、凹石三点等

特別史跡尖石遺跡案内略図
史跡標柱より
「尖石」まで約百五十米
古代公園まで約百四十米
龍神池まで約五百米
復原家屋
古代公園
与助尾根遺跡
住居址分布図
尖石考古館
三笠宮殿下御巡幸住居址標柱
特別史跡標柱
説明板
至尖石
至龍神池
至龍神池
北アルプス
会員
教育委員
市野

尖石

この石は「とがりいしさま」と呼ばれ、古くから村人に信仰されており、地名も遺跡の名前もこの石の形に由来する。このあたりは昔長者屋敷と呼ばれ、石の下に宝物が理まっているとて、ある村人が堀ったところ、その夜たちどころに「おこり」にかゝって死んだとの言伝えがある。原始信仰の対象としてのこの石に対するおそれから生まれた伝説であろう。

右の肩の樋状のくぼみは人工の痕で、遠い縄文時代の人達が石斧を砥いだ共同砥石であろうともいわれている。

茅野市教育委員会

◎注意　石にきずをつけないで下さい。

与助尾根遺跡

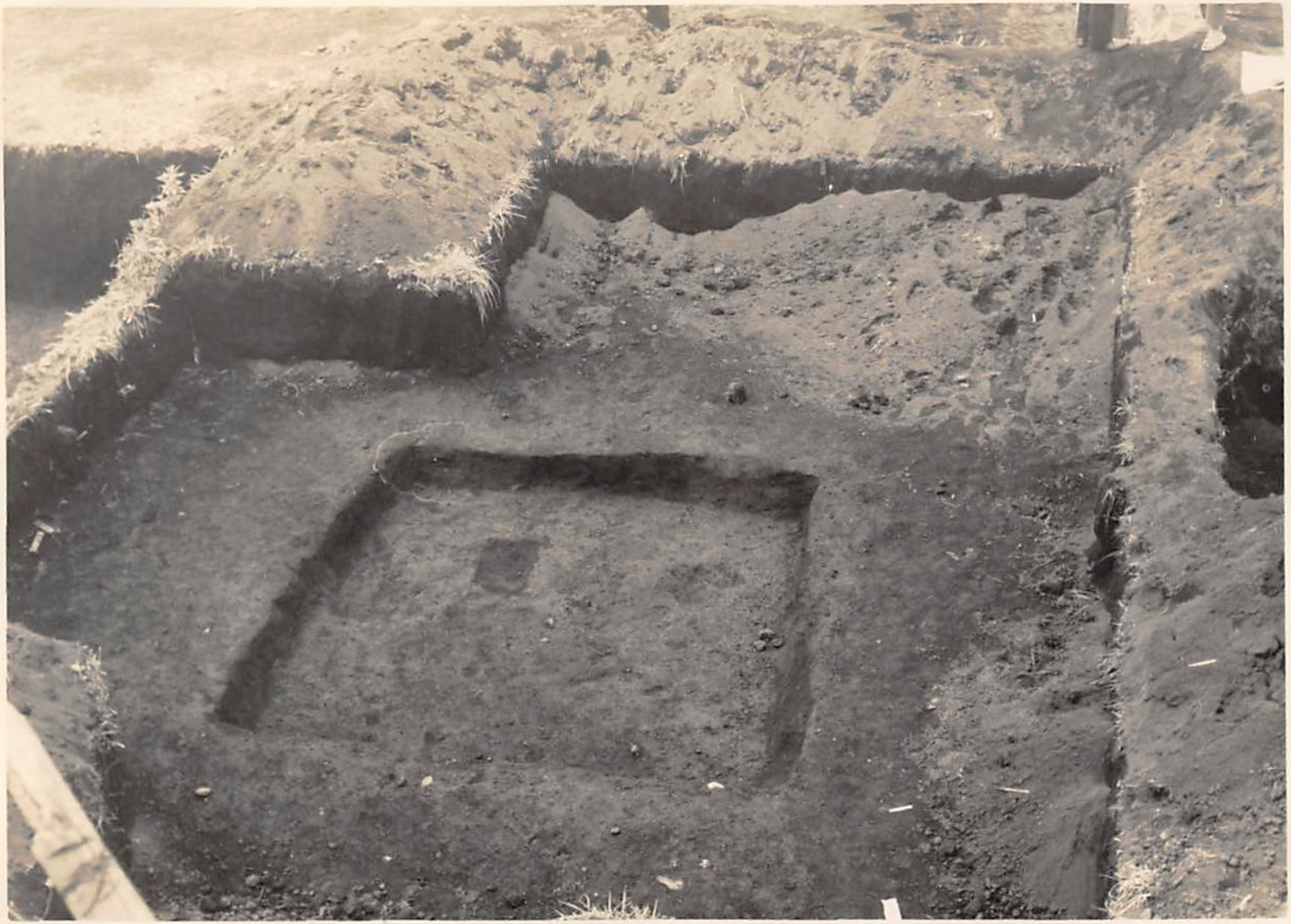
与助尾根遺跡は昭和二十一年から二十七にかけ発掘調査され、竪穴住居址二十八基が発見された。円形の窪みがすべて住居址でこれらは今から四千年程前の縄文中期の終りころ火石から分村したものであろう。出土した遺物や住居址の状態から、終末期の集落の戸数は十五戸程で四、五十人の人達が住んでいたと考えられる。赤土を掘り込んだ床には千草やむしろ、毛皮を敷き、萱で屋根をふき、土器や石器をつかい、狩猟や木の実等を採集して生活した。復原家屋は堀口捨己博士の設計によるものである。

茅野市教育委員会

特別史跡尖石石器時代遺跡

説明

この遺跡は昭和二十七年三月二十九日特別史跡に指定されました。八ヶ岳の西山麓海抜約一千米の丘陵上にあって廣い地域から石鏃、石斧、石錐、石匙、石皿等の石器、並びに縄文土器及び土偶、滑車型耳飾等の土製品が出土しました。多数の住居跡があります。今迄に約三十六基の住居跡が調査されましたが、多くは径約四米から六米の円型又は隅丸の方形をしていて表土下約一米に床があり、その中央には扁平な石を組合せた方形又はほぼ円形の炉跡が周囲には柱跡があります。高原地に営まれた石器時代の聚落地を示す著名な史跡として学術上の価値が特に高いものがあります

昭和二十七年六月

管理者　茅野市